

【アンニョンハセヨ！韓国語のすすめ】

韓国語は日本語に一番近い言語です。外国語を習得する上で難しいとされる語順の差がほとんどありません。従って、日本人にはとても馴染みやすく、覚えやすい外国語だと言えます。文字と発音をしっかり理解すれば、他の言語を凌ぐ会話能力の向上が期待できます。韓国語は大学で身につけられる「話せる外国語」の一つです。

ここで、韓国語の歴史について少し触れておきましょう。「ハングル」は15世紀、朝鮮王朝時代に創られた文字名で、言語名ではありません。それまで朝鮮では漢字が使われていたので、学問が許されなかった女性や一般の人々にとっては、読み書きできない事が普通でした。そこで、学識がなくても誰でも簡単に読んで書けるような文字を作ろうという目的で、1443年、朝鮮王朝の第四代王である世宗大王と儒学者たちが集まって創ったのが「ハングル」文字というわけですね。1446年、『訓民正音』という本の中にその仕組みや歴史をまとめて公布し、21世紀の今に到っています。この本は1997年にユネスコの世界記録遺産として登録されており、字義通り「民に正しい音を教える」、つまり音を拾って文字にしていく過程を教える内容です。このようにして生まれたハングル文字は、3000を超える世界中の言語の中でも、そのプロセスが最も明確で科学的である稀な文字だと言われています。韓国語は最初から誰でも簡単に身に付けられるように工夫されていますので、発音や文字の原理が非常に理解しやすく、学びやすい言語だと言えます。

近年のアジア各地をはじめ欧米に至るまで広く起こっている韓流ブームによって、日本でも韓国語の学習者が大幅に増えてきました。韓流ブームは韓国語の学習者を増加させ、さらに韓国への関心を拡大

させました。その波は日本の最北端にまで及び、2010年10月、北海道と韓国ソウル市が友好交流協定書を交わしました。それより早い2010年7月には、小樽市とソウル特別市江西区が姉妹都市を提携しており、両市は交流を続けてきています。

しかし、大衆文化の人気現象は、日本における「韓流」に限ったことではありません。韓国においても「日流」と言われる日本の大衆文化への強い関心や人気が長い間続いています。韓国における日流現象の一例を紹介しましょう。「お元気ですか？」という名台詞で知られる岩井俊二監督の映画『Love Letter（ラブレター）』は、小樽という町が知られるきっかけとなり、以後小樽には韓国から多くの観光客が訪れるようになりました。日本語が分からなくても「오겐키데스카?（お元気ですか?）」という台詞を覚えている韓国人がたくさんいるほどです。韓国人はこの映画の物語を通して、日本人の繊細な感情の動きに感動を覚え、情緒溢れる雪景色に見惚れ、そして何よりも、悲しい過去と現在の記憶をとてもお茶目でユーモアたっぷりに描いた家族関係や恋人関係に深い感銘を受けました。1995年に韓国で上映された『Love Letter』は絶大な人気を集め、これを機に日本大衆文化への関心が急激に高まりました。この関心はやがて、日本人や日本社会、また日本文化へと広がっていきました。映画に触発された「日流」ブームは多岐に渡っており、日本の小説や、ジブリアニメに代表されるアニメーションへの根強い人気により、日本文化は今もなお、変わらぬ称賛を受けています。振り返ってみると、確かに両国の間では長年政治の面で解決できなかったわだかまりが存在しますが、その限界を大衆文化の交流を通して縫い合わせてきた韓流・日流の役割は大きかったと思います。

このような日韓における大衆文化ブームは、異文化理解、または日韓における相互理解の入り口となっています。この相互理解には「異」を自分の力で確かに見つめ、受け入れようとする姿勢が必要となります。言葉を勉強することは、その姿勢を学ぶことだと考えます。大学で提供している第二言語としての

韓国語は、この「異」を理解する入り口として、学びの場を作ろうとしています。語学の勉強だけではなく、真の友好を目指すためには、お互いに知ろうとする姿勢が必要です。そうした中で見出される人同士の繋がりや、文化や社会への理解を広げていくことを目指しています。

【授業の紹介】

韓国語Ⅰは毎週火曜日、木曜日の週2回授業があり、二人の教員が曜日ごとに分担し、きめ細かく行き届いた授業をします。

火曜日のクラスでは読解と文法に重点をおいて授業をします。学習した知識を練習問題で確認し、その定着に努めます。木曜日のクラスでは会話に重点をおいて授業をします。言葉の学習が苦しみではなく楽しみになるようなクラスにしたいと考えています。発音練習を兼ね K-Pop、ドラマ、映画などにも触れます。目標はハングルの短い文を読んで書くことができること。あいさつや自己紹介、買い物、食堂での注文などが韓国語でできるようになることです。

韓国語ⅡAも韓国語Ⅰと同じく毎週火曜日、木曜日の計2コマの授業を二人の教員が分担し、行き届いた指導をします。

火曜日のクラスは、テキストの読解と文法に重点を置き、木曜日のクラスでは会話練習に重点を置いた学習を進めます。語学の勉強のみならず、韓国文化や韓国事情なども合わせて説明しています。地下鉄・バス等公共の交通機関を利用して一人歩きできる会話力の習得が目標です。

韓国語ⅡBは毎週1回、火曜日に授業があります。韓国語ⅡAと同じく文法と会話を同時に勉強します。週1回の授業ですが、目標はⅡAと同じであり、学習内容もそれほど異なっていません。

続く上級外国語Ⅰ（韓国語）では、韓国語ⅡAや韓国語ⅡBの内容を踏まえ、平易な文章から少し複雑な文章まで、徐々に分量を増やしながら韓国語の読解力を養います。新聞、国語教科書、エッセイ、小説など、様々な韓国語の文体に触れます。授業では文

法や語彙の確認のみならず、内容に応じて韓国の文化、歴史、習慣、さらに現在の韓国事情に到るまで、多方面から韓国や韓国語を概観します。

最後に上級外国語Ⅱ（韓国語）は、今まで学んできた韓国語の総体として、短いエッセイを書きます。最初は短文から練習し、徐々に複文が書けるように練習します。メールや日記、手紙などが書けるようになります。エッセイは大学生活、お国自慢、趣味など、身近なテーマを選び、韓国語で書けるように勉強します。

以上のように、韓国語は4年間の大学時代を通して、習得できる「身近な外国語」という位置づけで、皆さんの取り組みを積極的にサポートします。韓国語の勉強を通して、より身近な存在として韓国を感じてもらい、即ち異文化理解の入口として韓国語を始めてみてはいかがでしょうか。気軽にその第一歩を踏み出してみてください。

